

## アフリカにおける社会貢献活動

コマツ CSR 室

主幹 倉澤佳子



アフガニスタンの NGO に引き渡された対人地雷除去機第 1 号機



対人地雷撤去機を見にきた子どもたち

コマツの経営の基本は、「品質と信頼性」を追求し、企業価値を最大化することである。「企業価値とは、私たちを取り巻く社会とすべてのステークホルダーからの信頼度の総和である」との考えに基づき、事業活動をおこなっている。

法令順守はもちろんのこと、事業活動を通じた環境対応を強化するとともに、文化・教育・地域振興、スポーツ振興や災害復興支援などの社会貢献活動をおこなっている。本稿では、コマツにとって重要な市場の一つであるアフリカにおける社会貢献活動について紹介する。

### 対人地雷除去に建設機械の技術

対人地雷は、世界各地で紛争が起きるたびに大量に埋設されてきた。その多くは平和が訪れたあとも半永久的に爆発力を保ち、一般市民や子どもたちなど多くの被害者を生み出している。手作業で対人地雷を探知し、最新の注意を払って取り除くには、途方もない時間がかかる。しかもそれは危険極まりない作業である。

一方、機械を使えば作業員の危険性を最小限に

抑えながら、大幅に作業スピードを速めることが可能である。この「機械」つまり地雷除去機は、地面を搔いたり叩いたりすることによって地表近くに埋められた地雷を破砕・爆発させるものである。効率的で安全な対人地雷除去機を開発することは建設機械メーカーならではの専門技術を活用できるものと判断し、コマツは日本政府の支援を受けて 2003 年に対人地雷除去機の開発に着手した。ブルドーザーをベース車両に採用しており耐久性に優れ、岩だらけの土地や湿地、傾斜地も走破できる能力を備え、広い面積も効果的に処理できる。また、災害復旧地域などで実用化している建設機械用リモートコントロール技術を導入し、遠隔操作によって作業者の安全性を高めている。さらに、部品やアタッチメントを交換すればブルドーザーとして整地作業に使うことも可能で、将来の道路工事や農地開発にも活用できる。

### コミュニティの再生・復興も推進

コマツの対人地雷除去機は、07 年にアフガニスタンで初めて実用化された。また 08 年に、特定 NPO 法人「日本地雷処理を支援する会 (JMAS)」を支援することを決定している。JMAS は自衛隊 OB を主体とした技術と実績を備えた NPO 法人である。地雷処理、不発弾処理をはじめ、井戸掘りなど各政府機関と協同して技術・人材を援助する団体であり、コマツが持つ地雷除去機の技術を融合することで、被害地域のより迅速な復興が可能となる。現在、JMAS とコマツはカンボジアとアフリカのアンゴラにおいて地雷除

去から地域活動などを開始している。

アンゴラにおいては、外務省や日本の商社とも共同で地域支援をおこなう計画で、具体的には、対人地雷除去機により速やかな処理作業を実施し、その後は安全な土地での農地開発をはじめ、井戸建設、学校や住居の建設などコミュニティの再生・復興事業までおこなう。コマツは対人地雷除去機の無償貸与をおこなうとともに、そのため



対人地雷除去に関して提携したコマツ・野路社長(左)とJMAS・野中理事長

に必要な技術支援などを提供する。すでに除去活動をおこなう候補地をルアンダ近郊に決定し、現地への機械の輸送やトレーニングをおこなおうとしている。

## 南アフリカ共和国での教育支援

南アフリカ共和国はアフリカの中でも高い経済的発展を遂げている国であり、職業機会に恵まれている地域ではあるものの、必ずしもすべての人が就業に必要な水準の基礎教育を受けているわけではない。南部海岸に位置するリゾート地帯であるプレッテンバーグも、一步奥地に入ると貧困が広がっており、初等教育も満足に受けていない失業者、アパルトヘイト時代に教育を受けられなかった失業者が多数いる。

一方で、プレッテンバーグで砕石業を営むデンロン社では、慢性的に熟練工、オペレーター不足に悩まされていた。この人材不足を解決するには、就業できるレベルの教育機会を与える以外にないとデンロン社は考えた。顧客であるデンロン社のこの考えにコマツの現地販売代理店であるコマツ南部アフリカ(株)も賛同し、07年7月に「コマツ/デンロン・コミュニティセンター」が設立された。設立・運営にあたって、社屋や備品などはデンロン社が、教師の人件費や生徒たちの送迎にかかる費用はコマツ側が提供している。

授業内容は「計算」「英語によるコミュニケー

ション」の2教科で、学力に応じて4レベルに分かれたカリキュラムで授業がおこなわれる。レベル4を終了した生徒は、週に2回パソコンの使い方を学ぶ授業も受ける。

07年9月、最終レベルの教育を終了した生徒たち10名が卒業し、彼らの多くはその後、ホテル従業員、販売員、ウェイターなどフルタイムの仕事に就いた。以前刑務所にいたことのある卒業生の1人は大手雑貨店の従業員となり、「生まれて初めて自分は価値ある人間であることを自覚できた」といううれしい礼状を送ってきてくれた。

人材育成や教育において重要なのは何よりも継続であり、コマツ南部アフリカは今後も続けていくという強い意志のもと、販売サービスをおこなっているいくつかのその他地域においても人材育成プログラムの検討をしている。

上記2つの事例のように、コマツは事業をおこなう地域の人たちの生活を豊かにしていく活動を地道に継続していくことが大切であり、それが日本らしい、コマツらしい支援のあり方の一つであると考えている。これらの活動を通じて、社員が会社に対する誇りを高めることができるのも大きな効果である。コマツはこれからも、社会の一員として社会貢献に積極的に取り組んでいきたいと考えている。



(上) 「コマツ/デンロン・コミュニティセンター」の卒業生たち  
(右) コミュニティセンターへの生徒の送迎車



### ◆コマツの環境・社会活動

<http://www.komatsu.co.jp/CompanyInfo/csr/>